

東海第二発電所 審査資料に係る変更点について (1/2)

NO.	資料名	変更頁	変更内容	変更理由
1	資料 2 - 1 敷地周辺及び近傍の 地質・地質構造	5, 140 他	震源として考慮する活断層のひとつである「関東平野北西縁断層帯」について、地震調査研究推進本部による評価が見直されたことに伴い、当社における評価も見直した。これにより断層長さが 82km から 103km となる。	新知見の反映
2		156 他	国際地質科学連合により第四紀 更新世の始まりが 181 万年前から 258 万年前に改訂されたことに伴い、海域の地層 C1 層の地質年代区分を「鮮新世」から「鮮新世～更新世」に見直した。 これによる活断層評価への影響は無い。	新知見の反映
3		13, 51	反射法地震探査の解釈について、発電所内で追加実施した反射法地震探査及び大深度ボーリング孔の調査結果に基づき、久米層基底面の解釈を一部見直した。	資料 3 - 1 「敷地の地質・地質構造」との整合
4		156	棚橋他(2001)「塩屋埼沖」の完新統について、従来「地層欠如」としていたが、同文献では完新統について触れられていないものであるため「(記載なし)」に記載を改めた。	記載の適正化
5	資料 2 - 2 敷地周辺及び近傍の 地質・地質構造 (補足説明資料)	150~166	涸沼地点の断層は非構造性の表層滑落であるとした評価について、その根拠を充実した。	H28/2/13 現地調査での指摘による
6	資料 3 - 1 敷地の地質・地質構造	4, 17 他	評価にあたって参照した既存ボーリングを調査位置図等に追加した。	H28/6/29 審査会合での指摘による
7	資料 4 基準地震動の策定	17, 152, 153, 156	敷地周辺及び近傍の地質・地質構造において深谷断層帯・綾瀬川断層(旧: 関東平野北西縁断層帯)の断層長さを見直したが、検討用地震の選定への影響は無い。	新知見の反映
8		62, 65, 66, 68, 80, 83, 84, 86	入射角を東および北から 40 度とした解析結果を追加した。	H29/3/3 審査会合前の指摘による
9		67, 69, 85, 87	入射角を東西南北の各方向から 20 度とした解析結果を追加した。	H28/10/24 ヒアリングでの指摘による
10		78~83	応答波の最大振幅比の図について、縦軸に補助線を加えた。	H28/10/24 ヒアリングでの指摘による
11		175, 176	Mw6.5 以上の 2 地震の震源域と東海第二発電所の比較表について、対象地震震源域とサイトとの特徴が特に異なる点を記載した。	H28/10/14 審査会合での指摘による
12		195, 203, 204, 206, 207	領域震源における各領域の地震発生頻度の算定方法を記載した。	H29/3/3 審査会合での指摘による

※その他の記載の適正化、軽微な誤記修正、用語・表現の統一については省略

東海第二発電所 審査資料に係る変更点について (2 / 2)

NO.	資料名	変更頁	変更内容	変更理由
13	資料 4 基準地震動の策定	197, 200	各断層の再来期間の数値を適正化した。	H29/3/3 審査会合での指摘による
14		197	敷地周辺及び近傍の地質・地質構造において深谷断層帯・綾瀬川断層（旧：関東平野北西縁断層帯）の断層長さを見直したが、地震ハザード評価への影響はない。	新知見の反映
15		201, 213	ロジックツリーの分岐に、その他の活断層を追加した。	H29/3/3 審査会合での指摘による
16		201, 213	ロジックツリーにおいて、F1 断層単体での破壊を考慮しない理由を記載した。	H29/3/3 審査会合での指摘による
17		203, 206	領域震源モデルにおける等価震源距離の算出方法を記載した。	H29/3/3 審査会合での指摘による
18		217	震源別ハザード曲線に、各領域及び各断層の結果を追加した。	H29/3/3 審査会合での指摘による
19		237, 258	地震地体構造区分に係わる記載を修正した。	H28/10/14 審査会合での指摘による
20		265	人工岩盤を考慮した図に修正した。	H29/3/3 審査会合での指摘による

※その他の記載の適正化、軽微な誤記修正、用語・表現の統一については省略